

# 新型コロナウイルスワクチン接種 アナフィラキシーの初期対応

---



**岡田 玲緒奈**

ナビナビ 幹事

医師、日本小児科学会専門医



# 免責事項

---

- ・ ワクチンの製造・販売に関わる企業との利益相反、金銭の授受は一切ありません。
- ・ 2021年4月12日時点で明らかになっているデータや厚生労働省、米国CDC、  
関連学会による発信内容を基に作成しています。



# 新型コロナウイルスワクチン接種 アナフィラキシーの初期対応

1. 準備しておくことよいもの
2. アナフィラキシーの診断
3. 初期対応
4. 捕捉事項
5. 参考資料



# 1) 準備しておいた方がよいもの

- ・ 血圧計、輸液用物品
- ・ **アドレナリン注射薬 0.1%** (2本以上)
  - ✓ ボスミン注 1mg またはアドレナリン注 0.1% シリンジ「テルモ」
  - ✓ エピペン注射液 0.3mg でも可
- ・ 生理食塩水 20mL (5本以上) /500mL (2本以上)
- ・ ヒスタミン H1 受容体拮抗薬 (5錠以上)
  - ✓ PEGを含まないもの (例 ビラノア錠、ルパフィン錠、アレグラOD錠など)
- ・ 副腎皮質ステロイド薬 注射薬 (2本以上)
  - ✓ ヒドロコルチゾン (ハイドロコートン、ソル・コーテフ、サクシゾン など)
  - ✓ メチルプレドニゾロン (ソル・メドロール、ソル・メルコート など)



## 2-1) アレルギーの対応

- ・ 注射部位以外の皮膚・粘膜症状

- ✓ じんましん、皮膚の発赤・紅潮

- ✓ 口唇・舌・口蓋垂の腫脹や刺激感

- ✓ くしゃみ・鼻汁・鼻のかゆみ・鼻閉

→ **ヒスタミン H1 受容体拮抗薬**を内服させて症状改善まで観察

アナフィラキシーに進展しないか注意



## 2-2) アナフィラキシーの診断

- ・ アナフィラキシー ≠ アナフィラキシーショック
  - ・ 以下のうち、**2つ以上の症状**が発現した場合に診断
    - ✓ 皮膚・粘膜症状
    - ✓ 気道・呼吸器症状（喉頭閉塞感、呼吸困難、喘鳴、強い咳嗽、低酸素血症）
    - ✓ 循環器症状（血圧低下、意識障害）→**ショック**
    - ✓ 強い消化器症状（腹部仙痛、嘔吐、下痢）
- **仰臥位**にし、**バイタルサイン**を評価し、**応援を呼びます**



### 3) 初期対応

5-15分間隔で反復投与可

- とにかくまずは**アドレナリン筋注**です

- **大腿**中央前外側に**0.3cc** (=0.3mg)

22-23G 針など (エピペンは22G)

- その次は抗ヒ剤やステロイドでなく、

**酸素吸入**と**生理食塩水**などでの静脈ルート確保

- ショックの場合、10mL/kgを10分程度で負荷しましょう

- 並行して、入院可能な施設への**救急搬送の手配**を



## 4) 補足事項

- ・ オプションとして副腎皮質ステロイド薬の静注や、ヒスタミン H1 受容体拮抗薬の内服もありますが、救命効果は示されていません
- ・ 呼吸器症状が強ければ、 $\beta$  刺激薬の吸入もよいです
- ・  $\beta$  遮断薬を内服中の方は、アドレナリンの効果が減弱することがあり、アドレナリンへの反応が不十分な場合は、グルカゴン 1-2mgを5分ほどかけて静注してもよいです  
(初期対応の範疇を超えており、迅速な搬送が優先)



## 5) 参考資料

---

- ・ 日本アレルギー学会 「新型コロナウイルスワクチン接種に伴う重度の過敏症 (アナフィラキシー等) の管理・診断・治療」

[https://www.jsaweb.jp/modules/about/index.php?content\\_id=81](https://www.jsaweb.jp/modules/about/index.php?content_id=81)

- ・ 厚生労働省 「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する医療機関向け手引き (2.1版) 」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000770095.pdf>



COV-Nav  
こびナビ